

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和3年度高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動と進路支援
重点課題	学力伸長は日々の授業にあることを学校全体で共有し、生徒の実態に即した学習活動となるよう検討を推進する。幅広い学力層に対応した作問・評価方法を工夫し、応用力の育成と基礎事項の定着をはかる。 面接週間以外にも時期を逃さず面接を行い、生徒の主体的な学びと自己実現を支援する。
現 状	与えられた課題にはまじめに取り組めるが、学習活動自体が目的となっていることに無自覚な生徒が多い。将来を見据えて必要な事柄を選び取る主体的な姿勢の育成が急務である。 また進路選択に際しては、自己の適性・能力をしっかり認識できず、最終的には合格を第一として進路を考えがちである。
達成目標	(1) 個々の学習状況を踏まえた進路意識高揚のための面接指導を、各学年6回以上 (2) アンケート調査による学習活動への満足度80%以上
方 策	(1) 学期初めの面接週間に加え、生徒個々の現状に応じて随時面接指導にあたり、平日の家庭学習を、1年生2時間、2年生3時間、3年生の6月以降4時間を下限として確保できるよう支援する。 (2) 授業の予習・復習がおろそかにならないよう、学年と教科が連携を図り、自学課題の分量とレベルに配慮する。習熟度に応じた個別的な取り組みができるよう配慮する。 (3) 主体的な取り組みを促す評価方法を探究する。作問のあり方について、教科内で検討会を持ち、また結果を踏まえて総括を行う。 (4) 2期末にアンケートを行い、達成度を検証する。

()評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

令和3年度高岡南高校アクションプラン - 2 -

	令和3年度高岡南高校アクションプラン - 2 -
重点項目	学校生活
重点課題	(1) 自主自律の精神に満ちた品格ある生徒集団の形成 (2) 生活のリズムを整える食習慣の定着
現 状	(1) 挨拶の励行、時間厳守、身だしなみの価値を心から意識して実践できる生徒は、まだ少ない。 (2) 感染症予防の意義も踏まえ、食習慣だけでなく、食事内容や生活習慣に改善すべきところがある。
達成目標	(1) 生徒会を中心に「生徒会ルール規則」を見直し実践する。 (2) 3食を基本に生活のリズムを整え、健康的な生活の質を高める意識を育てる。
方 策	(1) ①外部講師から着こなしやマナー、現代社会問題について指導していく機会を設け、生徒自身に生活について考えさせる。 ②部会の定例化、学年との連携を密にすることで学校生活の問題点や情報を共有しながら、生徒が主体的な学校生活を送ることができるように支援する。 ③生徒が主体的に校訓の理念を理解し、それにふさわしい行動ができるよう、生徒会執行部や校紀委員会を中心に学校生活のさらなる充実につながる活動を行う。 (2) 朝食を始めとした食習慣の実態を把握し、食事の重要性を理解するとともに、免疫力の向上につながるような食事や生活習慣を考えさせる。

() 評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった

重点項目	学校の活性化
重点課題	(1) 行事・部活動を通じて自ら創意工夫に努め、主体的に行動できる生徒の育成 (2) 読書活動の推進 (3) ホームルーム活動などを通じてのボランティア活動の推進
現 状	(1) 昨年に引き続き学校行事・部活動が制約を受けるなかで、学校生活を意義あるものにするために、生徒一人ひとりのアイデアと主体的な姿勢が一層求められている。 (2) 自主学習の場として利用している生徒もいる。図書の貸出し数は少しずつ増えてきている。 (3) 奉仕の精神に富む生徒が多く、ボランティア活動には意欲的である。
達成目標	(1) 学校生活を意義あるものにするために、一人でも多くの生徒が工夫を凝らし、達成感と自らの成長を実感できた生徒が80%以上。 (2) 生徒の図書の貸出数が、一人につき年2冊以上になることを目指す。 (3) 生徒一人ひとりがボランティア活動に年間1回以上参加する。
方 策	(1) 生徒一人ひとりに対し、今年度の状況が、創造力と主体性を発揮する絶好の機会であると、ポジティブにとらえさせる。そのために、様々な場面で声かけと側面からサポートを心掛ける。 (2) ①学年と連携し、朝読書の時間を充実させる。広報活動に力を入れる。 ②図書館から朝読書用の書籍を選ばせる。(1年オリエンテーション時) ③探究的活動で書籍を活用させる。 ④POPカードや図書だより、校内掲示板など、広報に力を入れる。 (3) ホーム・ルーム活動等を利用し、各学年・クラス単位で校舎内外・戸出地区における清掃作業等のボランティア活動の企画・実施を推奨する。

() 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	「キャリアデザイン・プロジェクトS」の充実と授業力の向上
重点課題	<p>(1) 「キャリアデザイン・プロジェクトS」を充実発展させ、「学びに向かう姿勢」を涵養し「学ぶことの意義」「学ぶことの価値」を見いださせる中で、自立する際に必要となる思考力・判断力・表現力や価値観を活動を通して身につけさせるとともに進路目標を明確にする。</p> <p>(2) 新教育課程の実施に向けての授業改善を行う。</p>
現 状	<p>(1) キャリアデザイン・プロジェクトSで、自らの生き方・在り方を考え、将来への展望を抱かせ高き目標を持たせるような授業を展開している。探究的な活動においては1学年で地域課題をテーマに探究の手法を学ばせており、2学年での大学連携により探究力・自己発信力の伸長が期待される。加えて学びに向かう姿勢や高きを目指して挑戦する姿勢を高めるためにも、このプロジェクトを系統的に再編し伸ばしたい力を計画的に育成する必要がある。</p> <p>(2) 互見授業などを活用し、各教科・学年の授業を参観する機会が増えてきたが、新教育課程の実施に向け互いに学び合う場を増やしたり、ICT機器を用いた教育を推進したりとさらに工夫する余地がある。</p>
達成目標	<p>(1) キャリアデザインプロジェクトSを通じて、</p> <p>① 1学年は、進路目標が明確になった生徒の割合80%以上</p> <p>② 2学年は、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合80%</p> <p>(2) 互見授業の参観を2回以上実施する。教科別授業研究会を開催し、新教育課程で3年間を見通した指導法を築き、指導目標を共有する。</p>
方 策	<p>(1) 主に総合的な探究の時間を活用して実施する。</p> <p>① 1学年ではまず「学びに向かう姿勢」を指導する。キャリア教育を実施し、学ぶこと・働くこと・生きることなど自分の生き方や在り方について考える。地域課題をテーマにして課題の設定や情報活用能力など探究の手法を身につけさせる。</p> <p>② 2学年では高大連携により、探究的な活動（大学連携講座）を行う。仲間と協働しながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、探究力・自己発信力を身につけさせる。後半ではキャリアプランニングにより高き進路目標を持たせ挑戦する姿勢を身につけさせる。</p> <p>③ プロジェクトの評価と改善を行い、系統的に再編する取り組みを行い、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかる。</p> <p>(2) 授業力の向上</p> <p>① 互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。互見授業では生徒がタブレット端末を用いた授業を行うこととする。</p> <p>② 他教科の授業を含めて、授業を2回以上参観する。</p> <p>③ 互見授業終了後、教科別授業研究会を開催し、3年間を見通した指導法を築き指導目標を共有するなどカリキュラム・マネジメントを行う。</p>

() 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	I C T 推進事業
重点課題	(1) 教育クラウド、1人1台タブレットを利用した授業、会議等の推進 (2) 情報セキュリティの改善
現 状	(1) 教育クラウドを昨年度から導入し、ソフトウェア、ハードウェアの環境整備を行ってきた。さらに利活用が進むように、事業の推進にあたる必要がある。 (2) 個人情報等の管理情報（紙ベース、デジタル）の把握、整理、破棄などについて、教職員間で情報セキュリティに関する研修が必要である。
達成目標	教育クラウドを利用した教育活動の推進工程の達成 10 工程以上
方 策	<p>推進工程</p> <p>①ドメイン取得等初期設定 ②ガイドラインに沿った教育クラウド整備 ③1人1台タブレットの初期設定と配備に関する研究 ④個人情報等の管理すべき情報のリスト作成 ⑤整理ロッカー、袖机・ケース等の整備、職員室のゾーン設定 ⑥desknet's 設定変更による改善と利便性の向上 ⑦管理者の育成 ⑧Office365 教育クラウド利用、Teams、Forms に関する研修 ⑨1人1台タブレットを活用した授業に関する研究 ⑩教育クラウドを利用した授業改善・工夫に関する研修 ⑪情報セキュリティ研修 ⑫生徒の意識調査 ⑬教員の意識調査 ⑭教育クラウド導入・整備、情報セキュリティに関する視察の受け入れ ⑮次年度計画</p>

() 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった